



表2 上記一貫構造計算プログラムで検討できる最新評定
(BCJ評定ST0093-17,BCJ評定ST0054-10)の内容

検討項目	①曲げ耐力の Fc運動	②曲げ摩擦の 加算(T)	③基礎柱型破壊防止の検討				④ブレース偏心		⑤スラブ等を考慮した せん断力加算(conQa)
			設計ルート	(a)	(b)	(c)	水平方向	鉛直方向	
+NBUS7	○	○	1-2,2	× ^{※1}	× ^{※1}	○ ^{※2}	○	○	×
			3	○	○				
BUS-6	○	○	1-2,2	× ^{※1}	× ^{※1}	○ ^{※2}	○	○	×
			3	○	○				

- ① カタログ記載と異なる柱型コンクリートの設計基準強度 (Fc) を用いて柱脚の検討を行うことができます。
適用範囲内でFcを大きくすることにより長期圧縮軸力が大きな柱などに対応できる場合があります。
(設計ハンドブック4.1.1 柱脚曲げ耐力)
- ② 摩擦による柱脚終局せん断耐力 (fQ) に柱脚に生じる曲げモーメントによって生じたベースプレート下面の圧縮力による摩擦 (T) を加算します。
(設計ハンドブック4.1.2 柱脚せん断耐力)
- ③ (a)(b) : 柱脚に生ずる力が、柱脚曲げ耐力曲線を越えないことを確認しています。
(設計ハンドブック 4.7 基礎コンクリートの破壊防止等の確認)
※1 右記ご確認ください。  NBUS7/BUS-6における基礎コンクリートの破壊防止等の確認について
(c) : せん断力の作用方向前方に接合する基礎梁または基礎フーチング天端からの立ち上げ部段差が50mmを超えた場合、立ち上げ部側面の側方破壊耐力 (sQu) を考慮する必要があります。
(設計ハンドブック4.7 基礎コンクリートの破壊防止等の確認)
※2 すべての柱型、せん断力方向において側方破壊耐力 (sQu) を考慮しています。BTMにて立ち上げ部段差の有無を考慮した検討が可能です。
- ④ 柱脚にブレースが偏心して接合されたことによって偏って生じる力の影響を考慮した柱脚の検討が可能です。
(設計ハンドブック4.3 柱脚検討用応力)
- ⑤ 柱脚終局せん断耐力に、せん断力の作用方向前方に存在するスラブコンクリートによるせん断耐力を加算することができます。
(設計ハンドブック4.1.2 柱脚せん断耐力)

注) 構造計算プログラム BUS-6をお使いのお客様は下記も併せてご確認ください。

-  ブレース鉛直偏心方向偏心がある場合の柱脚検討用データについて